

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日: 2025年12月1日

事業所名: 児童発達支援 学校法人子どもの森 発達支援 SmileOn

対象人数(保護者)60人 回答者数 52人 回収 86.7%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	48	4			今のままでも十分かもしれないが、体育館やホールのようなより広くて活動しやすい部屋があるとよいと思った。	昨今の猛暑で外出や屋外での活動が難しい時に、ご意見にあるような思い切り身体を動かせるスペースがあると良いと思います。現状は、限られたスペースを活用して日陰で水遊びをするなどして対応しています。 今年は新しい大型運動教具も導入し、お子様方の運動発達の支援の充実を図っています。
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	49		1	2	もっと従業員を増やすための補助金を出してください。従業員の方達の業務の負担が多すぎて大変そうです。	年少児の支援はほぼお子様一人につき一人の支援員がついていますが、職員の体調不良等が重なることもあり、その時は活動内容を変更して安全第一の対応をしています。 業務の効率化により、職員の負担軽減は引き続き図っていきます。
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	48	2		2	児発、放デイ共に2階にある為入退室の際は階段を昇降する必要がある。子供が階段を登れずどうしようもない時、困ってしまつた。 エレベーターはあるが稼働していない。(職員の方にはお手伝いして下さる事お声かけいただけてますが申し訳なくてお願いできてません)	エレベーターについては、安全管理上の理由で停止しております。 保護者の皆様の負担感がないように、階段下への出迎え等の支援を徹底したいと思います。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	52				お手洗いも含めてとても綺麗で安心して過ごせる環境だと思います。大部屋と個室と用意されていて子供のその時の様子や状況に応じて都度対応してくださるのがありがたいです	施設設備も8年目になり、汚れが目立つようになってきましたが、衛生管理・整理整頓を心掛け、気持ちよく過ごせる環境を整えていきたいと思っています。

		チェック項目	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	50	2			職員のみなさんが、子どもに対してとても一生懸命でありがたい。	
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	51			1		HPで公開しているプログラムは一例ですが、運動・言語・コミュニケーション・集団生活・身辺自立等を含めた包括的なプログラムを、お子様方に合わせて実施しています。
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	52				細かいところまで観察して丁寧に分析してくださっていると思います。	
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	51	1				個別支援計画書の基になる「児童発達支援ガイドライン」は受付棚に設置しており、いつでも閲覧いただけるようになっております。
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	51	1				
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	40	6		6		発達上の必要性があって繰り返し同じプログラムを実施する場合がございます。保護者様にはその都度プログラムの内容をご説明しておりますが、ご不明な点がございましたらご遠慮なくお尋ねください。
	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	33	3	5	11	まだ短い期間での利用のため、他の園との交流は体験しておりません。	幼稚園や学童クラブの園庭で遊ぶ機会を設けており、場の共有という意味での交流は行っておりますが、交流そのものを目的とした活動は今後の課題です。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	52					
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	52					
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	36	5	1	10		ゲストスピーカーを交えた保護者座談会、療育グループごとの参観交流をそれぞれ年2回実施しております。法人内の活動スペースで講演や参加型イベントも行っていますが、内容や周知方法を工夫し、より多くの保護者様に満足いただける機会を提供していきたいと思っています。
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	50	2				毎回のご利用の際に、スタッフと保護者様とで十分なコミュニケーションがとれない時もございますが、HUGにてお子様のご様子をお知らせしております。保護者様からの連絡欄も活用して、十分な情報共有、共通理解の積み重ねを心掛けていきます。
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	49	3				年に2回の個別支援計画書面談だけでなく、いつでも面談のご希望があれば対応させていただいております。言い出しにくいと保護者の方もいらっしゃると仮定して、お声掛けするようにしたいと思います。
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	51	1			なにげなくコメントしたことを次の利用日に別途話す機会を作ってくれてアドバイスくれたり、丁寧な支援をしてくれていると感じます。	
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	29	5	3	15	兄弟がいないのでわからない	(14)に記載した通り、座談会や交流の機会を設けていますが、きょうだいに特化した事業は実施していません(一昨年度、座談会のテーマとして取り上げました)。継続的にきょうだい支援が出来るよう、テーマや機会を充実させたいと思います。
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	50	2				日程の調整が難しく、保護者様のご希望に合ったタイミングで実施できない場合もございますが、オンラインも活用しながら最大限ご相談に応じる所存です。ご心配ごとやお聞きになりたいことがありましたら、どうぞご遠慮なくお申し出ください。
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	51	1				
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	45	3		4		主なお知らせや広報はHUGの「活動記録」欄および玄関の掲示板にて行っております。SNSは利用していません。プログラム内容や自己評価の結果はHPに公開しています。今後は通信のような広報活動が出来るよう検討していきます。
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	50	2				

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	⑭ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	38	2		12		契約の際に各マニュアルの整備について言及していますが、保護者様に分かりにくい面があると思われるため工夫していきます。訓練の実施は法定通りに実施し、マニュアルの内容は随時ブラッシュアップしております。
	⑮ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	32	3		17	まだ利用が短く、訓練状況を把握できておりませんでした。 月2回の利用のため不明	5月から月1回の訓練を実施しております。実施した際には該当グループの保護者様にHUGにてお知らせしております。また、保育園との合同訓練も年2回実施しております。お休みなどで経験できないお子様への対策は今後の課題です。
	⑯ 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	50	1		1		非常時の備えをより充実する計画を進めているところです。
	⑰ 事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	44	2		6	転んだなど、私にとっては日常よくある小さなことでも報告いただきました。これまで療育中に怪我や事故がなく、上記の事象を経験したことがないので分からない。	事故や通院が必要なお怪我は今年度これまでのところ発生していません。打撲や擦り傷などのお怪我につきましては、手当とその都度保護者様へのご報告をさせていただいております。未然に防ぐことが出来た場合は、ヒヤリハット案件として所内で共有し、環境面と対応面の工夫により事故発生の防止に努めております。
満足度	⑱ こどもは安心感をもって通所していますか。	52					
	⑲ こどもは通所を楽しみにしていますか。	49	2		1		楽しみに通っていただくことが職員の一層の目標であり、日々の業務の励みになっております。 通わせてくださる保護者の皆さまには心から感謝しております。
	⑳ 事業所の支援に満足していますか。	50	2			園生活でつまずきがあり、親子ともにつらい時期に本当に親身になって接していただきました。親子を支えていただいただけでなく、幼稚園に対しても子どもや両親の思いを伝えていただくなど、考えられる限りの手を尽くして下さいました。感謝してもしきれません。 子供が安心して毎回とても楽しみに通所して、お世話になる事が出来て本当に良かったと思います。 スタッフの皆さまが子供と真摯に向き合ってサポートしてくださり感謝しています。	お子様やご家族様が安心して充実した日々を過ごしていけるように、自分たちがどうしたらよいかを常に問い続けております。皆さまのすぐ近くで、共に考え合い悩みながら、歩いていくことができましたら、この上ない幸いです。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 学校法人子どもの森 発達支援SmileOn		公表日		2025年 12月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	0	人数が多いグループは其中でグループを分けて複数の部屋を活用している。パーティションなども使用しながらお子さんに合った空間を心掛けています。	個室がもう少し欲しいと感じることがあります（物理的には厳しいですが）。➡左記の工夫点、プログラムの調整によって、対応していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	0	常勤・非常勤のシフト調整を丁寧にしている。	日によって職員の人数が少ない日があると安全確保などヒヤリとすることがある。➡基準を満たした人員配置ではありますが、安全第一とした環境調整、目を離さない配置や担当を話し合っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	0	シンプルな作りになっており、個に応じた環境設定がしやすい。	エレベーター使用不可のため階段が難しい方の場合、個別に対応していることがあった。➡安全上の理由からエレベーターを停止しているため、ベビーカーの昇降や乳児を抱えた保護者等への支援を適宜行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	0			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0	クールダウン用の部屋を考慮（確保）して運営している。	もう少し場所があればと感じることはありますが。➡1に記載した内容と同様。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15	0	療育毎の振り返り時間を設けること、ケース会議を行うこと等、日々職員同士で話せる場がある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	お互いの気付きからより良い方に進められるようにしており、改善までの流れがスムーズである。集まって意見を出し合う機会に加え、常に声を掛け合っています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	0			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	虐待防止やCVPPP等といった研修に加えて、有資格者による専門的な知識を学ぶ職員間の研修も充実している。今年度は昨年度以上に研修が活発と感じる。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0	ねらいを明記して、支援内容が分かりやすいように職員が共通認識できるようにしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0	保護者の方にも分かりやすいように（イメージしやすいように）言葉を選び、内容をより具体的に工夫をしている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	様々な資格をもった職員が連携してアセスメントを行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0	療育の前に定期的に確認している。配付される療育プログラムにお子さんそれぞれの目標が書かれているのでわかりやすいです。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	0		自分が理解しておらずやっていないだけかもしれませんが。➡Type-T・感覚プロファイルを全利用者に実施しており、行動観察のまとめとしてモニタリングを作成しています。いつでも閲覧可能な状態です。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0			

へ 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	1	日々振り返りした内容を次回に活かしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	0	日々の子どもの様子・発達から必要な変更を加えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14	1		個別活動を行う機会があまりないと思います。➡現在、取り出し個別（または2人グループ）の療育を試しています。それ以外の児に対しても、小集団の中で個々の課題に応じた環境設定や関わり方で支援しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	医療情報の提供、保等・関係機関としての訪問等、柔軟に進められている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	0	保護者の意向にそって進めている。就学支援シートを活用している。学校と直接話す機会はないが保等があるのは強みと思う。	詳しく把握しておらず申し訳ありません。➡制度や関係機関について、特に非常勤のスタッフへの説明や周知を徹底していきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	13	1		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	4	個々の子どもが通園先で他の子どもと日常的に活動しており、その場への訪問支援を行っている。公園や広場と一緒に使うことがある（同法人の園庭を使う際も自然と交流している時がある）。	幼稚園の園庭、児童館の広場、地域の公園での共有はあるが（子どもの同志の）交流はない。園庭利用で触れ合う程度だが発達を知るためにもう少し交流できると良いと思う。➡必要性も含めて、検討の必要があると考えています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	直接プログラムを実施することはないが、対応方法の助言や医療機関等の紹介を行っている。	➡座談会や参観の機会を増やしていきます。紹介できる外部機関との連携も進めています。

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	15	0		➡保護者の交流については34参照。きょうだいの交流を目的とする機会の提供は今後の課題です。座談会のテーマとして継続的に取り上げたいと思います。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12	3		広報はHUGでのお知らせや玄関の掲示板を使って行っています。HUGの活用の幅を広げることで、スムーズな情報共有やコミュニケーションを心掛けていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0		
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	6	行事は行っていないため、住民の方を招待することはないが、閉鎖的な運営は行っていない。読み聞かせの方が来るのはとてもいいと思います。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0		家族への周知（内容まで）はなされていないように感じます。➡契約時にマニュアル整備については説明しています。設置場所を工夫するなどして、より広く知ってもらえるようにします。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	15	0		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	3	該当なし。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	1		安全計画は把握していませんすみません。➡非常勤職員への周知を徹底していきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	2		どのような方法で連絡をとるのか個人的にまだ把握しておりません。安全計画は把握していませんすみません。➡避難計画と共に体制を整えています。周知徹底が課題です。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12	1	保護者への説明は行われている。	計画への記載まではしていないように思いますが、そこまで必要な子も少ないためかもしれません。➡該当児は個別支援計画に記載し、ご署名をいただいています。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 学校法人子どもの森 発達支援SmileOn			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 21日		～	2025年 11月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60名	(回答者数)	52名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 21日		～	2025年 11月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 21日		～	2025年 11月 11日

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもにとって安心できる場であること(保護者評価で満点をいただきました。)	心優しく、志の高い職員が集まっており、常に子どものためを思って仕事をしている。お互いの声掛けも「子ども中心」の観点で行っており、こどもの「不安」や「不調」に気づいた際にはすぐに共有し、背景と対応を考えた連携が出来ている。	半ば習慣的・無意識的に行っている「子ども中心」の療育について、意識化・見える化することで、新人職員にも分かりやすく伝えていきたい。それによって、保護者や外部の人に伝える「言語」も手に入れることになり一石二鳥と考える。
2	子どもの理解と保護者のニーズに基づいた「個別支援計画書」を作成していること(保護者評価で満点をいただきました。)	発達検査やType-T、感覚プロファイルを標準的なアセスメントとし、それらを必ず行動観察(具体的なエピソード)とセットで計画書に反映させている。また、エピソードや見立ては複数の職員(多職種)から集め、それを会議でまとめあげていくプロセスを踏んでいる。最後に、保護者の観点で理解し受け入れやすい文言になっているかをチェックしている。	会議にできるだけ多くの職員が入れるように、余裕をもってモニタリングやアセスメントを進める。随時、保護者のニーズを聞き取り、リアルニーズを反映させたものにブラッシュアップしていく。
3	保護者にとって満足していただけるサービスの提供(保護者コメントで「親子を支えていただけて～考えられる限りの手を尽くしてくださいました。」とコメントをいただきました。)	振り返りや反省、対策の検討や新たな課題設定などPDCAサイクルを心掛けて療育を行っている。また面談や訪問の他、相談支援や保育所等訪問支援といった所内サービスを組み合わせたり、子ども家庭支援センターや医療機関などの他機関との連携、大学教員からのSVなども行っており、包括的な支援を心掛けている。	一つ一つのケースに時間をかけて進めていく必要があるため、効率化が課題となっている。職員一人一人の力を伸ばしつつ、新人の育成にも力を入れて、チーム全体の力を上げる組織づくりを進めたい。原点は良い仲間の集まったチームであること。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が限られている。兄弟を含めた交流の機会がない。	利用家庭数が多く(60家庭)、参観交流週間を前期後期各1週間もうけているが、各家庭にとっては年2回しかないということになる。15～20名参加できる座談会も年2回も受けているが、日程が合わないで参加できない。	オンラインでの交流を検討している。プライバシーの守りやすさもあって、対面での交流に限定してきたが、ご多忙な保護者のためにはオンライン参加を可能にすることで、機会の拡大につながると期待される。
2	ペアレントトレーニングのような系統的・継続的な家族支援プログラムがない。	家族支援は個別の面談を中心に行っており、事業所として保護者に「教える」というスタンスになじみがない。そのため、ペアレントトレーニングの知識と経験のある職員が少なく、研修も取り入れていない。	ペアレントプログラムのニーズは少しずつ増えている。まずは信頼できる医療機関等で行っているプログラムを紹介できる体制を整えたい。現在、各種カウンセリングやペアトレを実施できる医療機関との連携を進めているところである。
3	活動や行事、各種お知らせなどの広報機能が弱い	以前発行していたSmileOn通信の担当者が移動になり、引き継げる職員がいない(主に時間的な余裕がない)。	HUGのお知らせ機能を積極的に活用し、またそのことを利用者の皆様に周知したい。また、保護者が送迎で来所する際に目にする掲示板の活用も図っていきたい。